

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース



発行

財 第五福竜丸平和協会
〒136-0081 東京都江東区
夢の島3-2
都立第五福竜丸展示館内
電話 03-3521-8494

暑い夏を迎える恒例のように、新聞やテレビ等で、戦争のおそろしさや原爆の悲惨さを訴える記事が目につくようになりました。特に今年はインドそしてパキスタンの相次ぐ核実験強行によって、南アジアに核保有の恐れが、ということで問題意識が強まってきた。またこの緊張の高まりの中で、核拡散防止体制は根底から揺らいできました。

私たち足立区では毎月六日、九日には、駅頭や商店街の街頭で核兵器廃絶のための国際署名を訴える6・9行動を行っていますが、例年八月は、原水爆禁止世界大会に代表を送るのが精一杯で八月の6・9行動は行っていませんでしたが、今年は世界大会の代表決定と同時に、区内で行動する人も決めました。八月六日、北千住駅頭でのパネル(被爆写真)を展示しての署名の訴えは、雨が降ったせいもあって、数はそれ程多くなかつたのですが、足をとめて写真に見いる人や不安な表情で訴えを聞きいる人など通りすがりの人の中にも、かなり関心の高いことを感

核兵器の全廃へさらに力強い船出を 甦った第五福竜丸は核実験被害の究明と救済を求めるべきである

青木佳子

じさせられました。

また、六月に被爆者の方の体験を聞く集いをもちました。今まで奥さんにも語られなかったという被爆体験とその後苦しかった生活をお聞きして私も胸が一杯になりました。

私は一日も早く核兵器を廃絶し、これ以上地球が汚染されることのないようとに、強く願わざにはいられません。

昨年しばらくぶりに第五福竜丸展示館を訪れ、第五福竜丸に手をかけると、ボロッと、船体の一部がはがれて、福竜丸はもう瀕死の状態でした。被爆の証人としての福竜丸を見守ってきたつもりの私は、愕然としました。急がなければ、と胸がキュンとなりました。

四年前、太平洋・ビキニ環礁でのアメリカの水爆実験で「死の灰」をあげた第五福竜丸が、現在の展示館で保存されるまでには、数奇な運命をたどりました。そして別の船に付け替えられ方不明になっていたエンジンが、九年間に三重県沖で、引き揚げられて

世界に数百万人いるといわれている核実験の被害者、一日も早く被害の全貌を明らかにすることが必要です。

甦った第五福竜丸は、核実験の被害の究明と、ガンや放射能障害、子どもや孫にまでおよぶ被害を救済するよう要求しています。

広島・長崎、核実験の被害をもたらした核兵器の全廃をもとめ、被害の救済を求めて、いま、第五福竜丸(被害者)と、原水爆禁止運動が堅く連帯して、核兵器のない世界に向けて、力強く船出できるよう、できる限りの力を尽したいと思います。

(東京・足立原水協理事長)

いたみ激しい鋼材、永年の風化に息をのむほど

展示館の改修工事すすむ。館内外縦横に足場

七月一日からはじまった第五福竜丸展示館の改修工事は着々と進行、暑い陽射しの中、展示館内外で困難な作業が行なわれています。休館を知らずに訪れる人々も、夏休みの宿題に訪ねる中学生、高校生も、見えない船に思いをはせ見守ります。

工事は、①展示館内外の補修と改修②船体の補強③エンジン展示のための基礎と建尾建設の三点を中心。展示館前の広場から背後の植込みまで周囲全面に四メートル

近い鋼板の間に取り囲まれ、船はもう外からうかがうことさえできません。



縦横に足場がくまれた展示館の外壁と内部

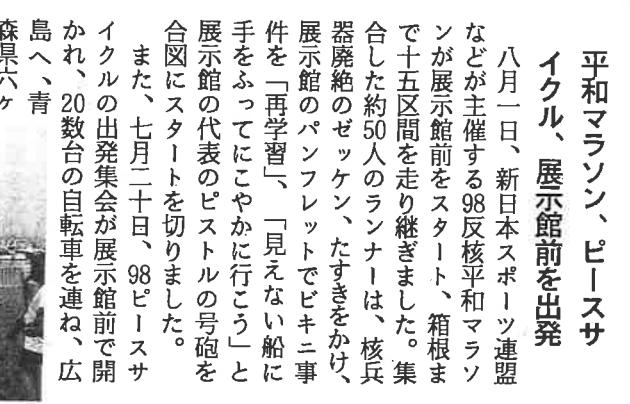
展示館の外に、四月新築となつた小さな事務所で、工事を見守りつつ、訪れる人々への案内や説明、十一月以降の見学申し込みの受け付け業務などをいま続けられています。



になったコンクリート、風化した木ぼどです。

船体の修理も文化財建造物保存技術協会の調査と指導により、甲板の補強、マスト基底部の取り替え、剥げ落ちたデッキ部分のベンガラスの撤去と鋼材の取り替えが足場が組まれ、雨漏りのする天井巨大なクレーン車で機材を運びあげつつ行なわれています。二十年余の風雨、潮風に腐食した外壁のコルテン鋼が焼き切ってはがされ、剥き出しになつた支柱、ぼろぼろ

内外のスロープの補修や床シートの張り替え、アプローチと広場、外構の整備などが十月中旬まで継続され、空調・照明・展示パネル等の整備と復帰を経て十一月一日「新装開館」となります。



平和マラソン、ピースサ

なが展示館前をスタート、箱根まで十五区間を走り継ぎました。集会を「再学習」、「見えない船に手をふってにこやかに行こう」と

展示館の代表のピストルの号砲を合図にスタートを切りました。また、七月二十日、98ピースサーキルの出発集会が展示館前で開かれ、20数台の自転車を連ね、広島へ、青森県八ヶ所村へと出発しました。前日、近くの潮見教会で交流会がもたれ十年余の運動の歴史をふりかえりました。



「第五福竜丸エンジン引き揚げの地」記念碑
三重県御浜町役場中庭

南牟婁郡御浜町の熊野灘沖で引き揚げられ、昨年十二月一日、引き揚げ一周年の記念日に現地で集いがもたれ、町当局に記念碑の建立が訴えられていた。この熊野灘から太平洋を望み、世界に平和をアピールする絶好の場所に、是非記念碑建立をとの願いであった。幸い新年度の予算で、新庁舎内庭園に「第五福竜丸エンジン引き揚げの地の記念碑」とエンジンがたどつた歴史を御影石に刻んだ碑の二つが建立されることに決まり、関係者の努力と町の人々の願いが実つて、六月三十日の除幕式になつたのであった。

トル、水深約十メートルの引き揚げ地に向かう方向に新庁舎と結ぶ格好に建立され、記念碑中央付近から見える電柱と記念碑を結んだ線の二百メートル先が引き揚げの現場である。その付近の松林の木で船は作られ、松林を前にエンジンは沈んでいたのだった。

まさに鎮魂、永遠の平和を祈念するにふさわしい場所である。

二つの碑のそばには、県内や和歌山県のこどもたちの思いをつづった作文などをいれた「タイムカプセル」が埋められた。

と奥西町長は感慨をのべたが、一十年後の日本はどうなっているかの思いが私の胸によぎった。七年間通い続け、お世話になつた関係者に後ろ髪を引かれる思いで現地に別れをつげた。

第五福竜丸建造の地古座町に記念碑の建立運動をすすめ、実現したい。展示館の改修工事完成後わが娘エンジンが無事嫁入り先の展示館に船とともに落ち着いたかいいわるばあさんや小姑に嫌われていなかいか、いつかそっと夢の島に行きたいものである。

熊野灘から世界に平和をアピール
エンジン引き揚げの地に記念碑建

地に記念碑建立

長、副議長、収入役、教育長、企画振興課長、建設課長など町閑関係者、紀南漁業協同組合長などが出席、私も招かれ、共に記念碑の除幕を行なった。

三重県の丸山、桃青、大台中学
校、和歌山県海南市の海南一中、
二中、三中、東海南中、下津一中
の千五百人余りの生徒が、平和和
の思いをつづった色紙や作文、そ

インドとパキスタンの核実験が国際政治に新たな緊張をもたらしている。九八年の原水爆禁止世界大会には、そのインド・パキスタンからの参加を含め、いつもより多くの海外代表が結集した。核戦争の危機、新たな核軍拡競争の危険が語られ、核廃絶の緊急性が今まで以上に増大していることを確認した。NPT（核不拡散条約）やCTBT（包括的核実験禁止条約）による核兵器管理論は音をなして崩れ去り、ソ連崩壊後一〇年近くを経て、いま核兵器をめぐる新たな危機を迎えるとしているのである。

私は、それはあたかも広島・長崎の惨劇の九年後におきた、第五福竜丸事件に似た衝撃が世界に走ったように思われてならない。そうならば、第五福竜丸事件で得た教訓を世界に発信し、インド・パキスタンの核実験を契機とする

* 私の考えるメッセージ案である。

核実験は「安全」という言葉が常に修飾語としてつけられる。しかし安全な核実験は一つとしてなかつた。ビキニ水爆実験でも、「危険区域」が太平洋のど真中に設定されたが、第五福竜丸はその危険区域の外側にいて被害を受けたではないか。また、核保有国では、核兵器製造の過程や、実験場での労働者のヒバクも不可避的である。インドでもパキスタンでも、少なくないヒバク者をつくり出していることはあきらかだ。両国民をはじめ、世界の人々はまずそのことを知らねばならない。

二つ目は核実験による環境破壊のすさまじさである。第五福竜丸事件では、僅か数カ月の内に太平洋中のマグロから放射能が検出さ

汚染されている。そして環境破壊は食料資源を台なしにする。第五回 福竜丸事件のマグロパニックは人々の生活を直撃した。いま世界は人口増による食料不足の時代を迎えることとしている。これ以上地球を痛めつけることは、結局は天に睡する行為だということを確認しようではないか。

そしてもう一つ、第五福竜丸事件から得た偉大な教訓がある。これは、人々が団結して事に当たわれば、災い転じて福となすことができるのを、全世界に示したことである。広島・長崎につぐ三度目の核被害に、日本中が怒り、ついに原水爆禁止世界大会を実現させた。それは日本だけでなく、世界の反核運動を呼び起こし、結集して發展させてきた。そのことが幾度かおそった核戦争の危機をのりこえいま世界にうねりとなって起きつある核廃絶の世論づくりに結着した。

（原水爆禁止世界大会実行委員会
運営委員会代表）

界大会実行委員会
運営委員会代表

一九九八年の夏

第五福竜丸事件からのメッセージ

れた。中には、イント洋のマグロが汚染されたものもあった。それと水が汚染され、微生物が汚染されて、小魚が、マグロがと食物連鎖を通じて一万倍にも濃縮され汚染が拡散したのだ。たとえ地下核実験でも、ネバダでは地下水の水源ふくらみ

しているといつても過言ではない。
もしこの世界大会が無かつたなれば、核兵器という悪魔の魅力への
歯止めが果たして存在しえたでさうか。